

### 組織と業務の見直しのための評価の観点と評価基準について

継続的な「組織と業務の見直し」のために必要な評価を定期的実施する。評価は大学の持続的な発展と活性化のための重要な手段であり、公平公正な評価のためには客観的で分かりやすい評価基準の策定が急務である。評価の対象となる組織は学内の部局等及びセンター、プロジェクト、グループ等のすべての組織を指すが、研究などでは個人も対象となる。業務の範囲は、教育研究、社会貢献及び管理運営等を含む。

#### ◇ 評価の観点について

##### ➤ 各組織の業務内容・実績についての評価

- \* 業務（教育研究等）の実施内容・実績が、中長期ビジョン、中期目標・計画等の法人の方針に沿ったものとなっているか。
- \* また、当初計画したプロジェクトなどの内容・目標と合致したものとなっているか。
- \* 実績の内容が、投入した資金や当該施設等に見合うものとなっているか。

##### ➤ 各組織の運営体制及び運営状況についての評価

- \* 組織のガバナンス及び運営組織の構成に問題はないか。
- \* 予算の配分、執行、会計報告等が適切に行われているか。
- \* 法令違反やハラスメントなど、運営上の問題が起きていないか。

#### ◇ 評価の実施方針

- \* 評価は、透明性を保ちつつ、公平公正に行うものとする。
- \* 評価結果に基づき、拡大（SS）、現状維持（A）、縮小（B）、廃止（C）の判定を行う。
- \* 詳細な評価項目・内容については、教育、研究、社会貢献（地域貢献や国際貢献等）等及び運営状況別に別途定める。

#### ◇ その他

- \* 組織や教育研究等の業務内容の変更・改善が必要とされる場合には、理事室等と協議の上、実施の途中であっても必要な変更等を実施する。
- \* 期限のあるセンター、プロジェクト等は、実績等の評価結果にかかわらず、目的等を達成したと判断される場合などには廃止することもありうる。
- \* 新規の教育、研究、社会貢献（地域貢献や国際貢献等）等に関する学内外の競争的資金等獲得申請に当たっては、個人及び組織における実施計画と併せて過去の実績を判断の材料とする。